

2015 Environmental Report

青梅ガス株式会社 環境報告書





昨年末に、気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)が開催され、2020年以降の温暖化対策の国際枠組みである「パリ協定」が採択されました。ここでは、産業革命前からの世界平均気温の上昇幅を2℃より十分低くし、できれば1.5℃未満に抑えることを目指して、今世紀後半に世界全体の温室効果ガス排出量を生態系が吸収できる範囲に収めようということが新しい目標とされました。そのため、温室効果ガスの削減目標を提出して対策をとることが、ようやく全ての国々に義務付けられました。我が国では昨年の7月に決定した「長期エネルギー需給見通し」における2030年度のエネルギーミックス(電源構成)に基づいて、2030年度の温室効果ガス削減目標を2013年度比▲26.0%とする見込みです。前提となる電源構成については、原子力が20～22%程度、再生可能エネルギーが22～24%程度で、再生可能エネルギーのうち水力を除く新エネルギーの合計は13～15%程度となっています。ところが現在のところ、再稼働を果たした原発は九州電力の川内原発と関西電力の高浜原発だけであり、そのうちの高浜原発はすぐに運転停止に追い込まれている状態です。また、新エネルギーの合計も2014年度では3.2%程度であり、目標の達成に向けては極めて険しい道のりが待ちかまえていると言わざるを得ません。

さて、当社では昨年いち早く【ISO14001】の2015年改定版への移行を実施しました。2015年改定版では、環境マネジメントシステムに関連する外部及び内部の課題の変化、遵守義務を含む利害関係者のニーズ及び期待の変化、リスク及び機会の変化など、より企業経営に直結したマネジメントが要求され、経営資源の配分の妥当性も評価の対象となります。とりわけ、当社は都市ガス事業者という性質上、保安に対する取り組みが極めて重要であり、そのリスクマネジメントを別の活動として行ってきましたが、改定版への移行を機に、【ISO14001】の活動と統合することができました。

また、今年の4月から、いよいよ電力小売りが全面自由化され、当社も小売電気事業者として低圧電力の販売を開始しました。都市ガス事業者はもともと電気とガスをバランス良く使うことを提案してきましたので、電気を提供できるようになった今、電気とガスの双方を提供していこうというのは自然な流れでありました。ただ、多くの新規参入者が競争している中では、どうしても「安さ」が話題の中心になりがちで、むしろ電気をたくさん使った方がメリットが大きくなるというジレンマを抱えています。もちろん、当社も電気とガスをセットとすることで、より安い料金で電気をご提供することを追求しています。しかし、ただ単に料金を安くするだけでなく、『東京都家庭の省エネアドバイザー』として活動してきた経験を活かし、節電を通じて二酸化炭素の排出量を削減しながら、使用量を減らすことで「安く」なるようなご提案を心がけて参る所存です。

青梅ガス株式会社 代表取締役社長 中村洋介

青梅ガスの でんき

2016.4.1 START

青梅ガス株式会社 電力小売開始

青梅ガスでは、2016年4月1日より家庭用や業務用のお客さま向け低圧電力の販売を開始する運びとなりました。

これに伴い、電気のご使用量が比較的多いお客さま向けの電気料金メニュー「OGプラン」3種と青梅ガスグループの都市ガス、簡易ガス、LPガス、いずれかをご使用いただいているお客さま向け電気料金割引プラン「ガスセット割引」をご用意いたしました。

これにより、従来の電気料金と比較して、戸建3人世帯での平均的な電気使用量(392kWh/月)*を例にとると「ガスセット割引」適用で年間で約7,500円お得になります。また、ご契約の大きなお客さま(1,000kWh/月)では、年間で約33,900円もお得になります。

青梅ガスは、今後ともより付加価値の高いエネルギーサービスの提供に努めてまいります。

*「家庭の省エネルギー評価指標」2015年6月25日 東京都環境局

概要

■ 会社概要

所在地 [本社] 東京都青梅市新町8丁目8番地の13
[事業所] 東京都青梅市末広町2丁目10番地
設立 1960年(昭和35年)
資本金 45,000,000円
事業内容 1. 都市ガス・簡易ガス供給、販売
2. CNGスタンド及びLPGスタンドの運営
3. ガス機器の販売及び設置
4. ガス配管工事の設計・施工及び施工管理
供給区域 青梅市内及び近隣市町村
従業員数 67名

■ 対象域間

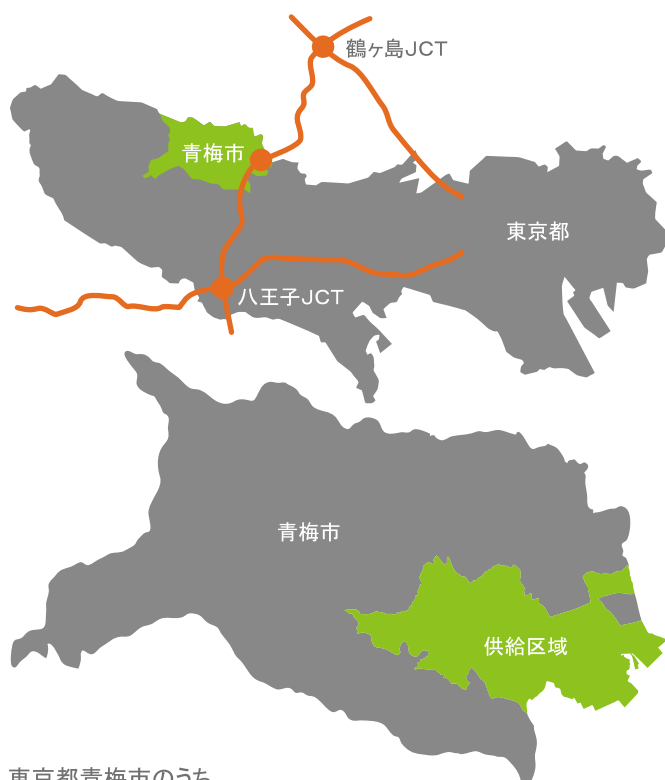
2015年1月～2015年12月

■ 対象範囲

本社・事業所・付臭施設及び供給設備



■ 都市ガス供給範囲



東京都青梅市のうち

天ヶ瀬町／今井2・3・5丁目／今寺1・4・5丁目／裏宿町
大柳町／勝沼1～3丁目／河辺町1～10丁目／上町
塩船／新町1～9丁目／末広町1・2丁目／住江町
滝ノ上町／大門1～3丁目／千ヶ瀬町1～6丁目／仲町
長淵4・7丁目／西分町1～3丁目／根ヶ布1丁目
野上町1～4丁目／東青梅1～6丁目／吹上／藤橋3丁目
本町／森下町／師岡町1～4丁目

■ 都市ガス業種別販売量

家庭用	35.8%	6,963,157m ³
商業用	7.0%	1,355,831m ³
工業用	41.6%	8,088,167m ³
その他	15.6%	3,046,058m ³

■ メーター取付件数

家庭用	95.1%	20,561件
商業用	3.0%	652件
工業用	0.4%	79件
その他	1.5%	322件
合計		21,614件

■ 環境理念

青梅ガス株式会社は、資源とエネルギーの有効的活用を図り、公益事業者として環境関連法令及び「東京都・青梅市環境基本条例」を遵守し、自然環境に恵まれた街との調和を図り、豊かで安全な地域社会の実現に貢献します。

併せて、我々は企業活動を通じて、地域と地球環境保全に深く関わっていることを認識し、環境に優しい天然ガスの安全で安定した供給を行い、且つ資源とエネルギーの効率的利用を推進することにより、地域社会の発展に貢献します。

■ 環境方針

当社は、以下の事項を「環境方針」と定め、環境保全の推進に貢献します。

1. 環境負荷の低減・温室効果ガス排出削減及びエネルギーベストミックスによる省エネ・節電への取組み

- (1) 環境にやさしい天然ガスの普及促進を図ります。
- (2) 低環境負荷型機器の普及に努め、効率的なエネルギー使用を推進します。
- (3) 社内活動全般について、省資源、省エネ活動を展開し環境保全を推進します。
- (4) 企業活動に伴い発生する廃棄物の抑制及び再利用、再資源化に取組みます。
- (5) 省エネ・節電対策について、地域社会への情報提供及び啓蒙活動を推進します。

2. 環境マネジメントシステムに基づく取組み

- (1) 環境マネジメントシステムを確立し、継続的な改善活動を行うことにより、汚染の予防及び環境保護を推進します。
- (2) 方針に基づき環境目的及び環境目標を設定し、定期的見直しを行います。
- (3) 環境パフォーマンスの向上の為、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。

3. 法令等の遵守

環境関連法令及び当社が同意する日本ガス協会等の関係組織によるその他の要求事項を遵守します。

4. 地域環境活動への参画

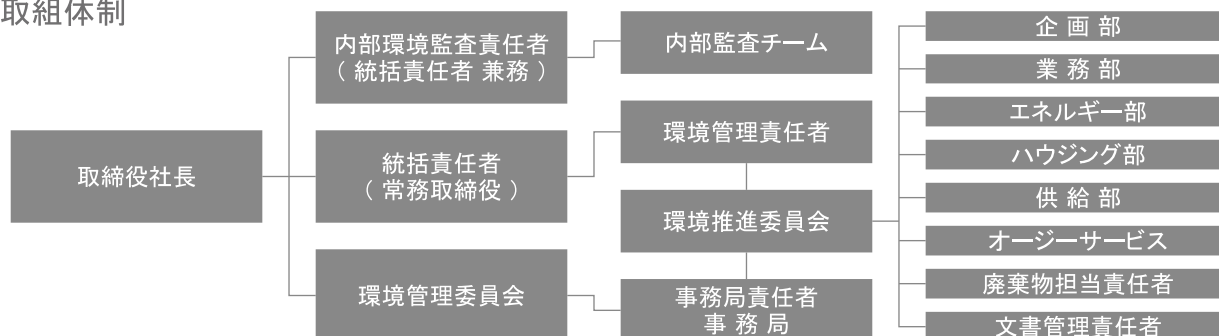
地域環境活動へ積極的に参画し、快適な社会の実現に貢献します。

この環境方針は、全従業員に周知すると共に一般に公開します。

■ 中期計画(2014～2016)

企画部	業務のシステム化・効率化
業務部	業務の効率化・コスト削減・CS向上に関わる改善を3年間で9件以上実施
エネルギー部	① 天然ガスシフトによる「省エネ・省CO2・電力ピークカット」の推進／補助金を活用した営業提案活動 ② INPEXカロリーアップ(45MJ化)を円滑に実施する。
ハウジング部	① 天然ガスの利用促進による家庭内における二酸化炭素排出量削減 ② 他燃料からの切替提案・環境負荷の少ないガス機器の提案活動
供給部	保安グループ:敷地内遮断バルブ管理／導管グループ:ガス工事中の事故防止
(株)オージーサービス	市営住宅・公団住宅へのCF・BF式風呂釜の連続着火事故防止の為の安全型機器の取替提案及び安全使用周知の徹底

■ 取組体制

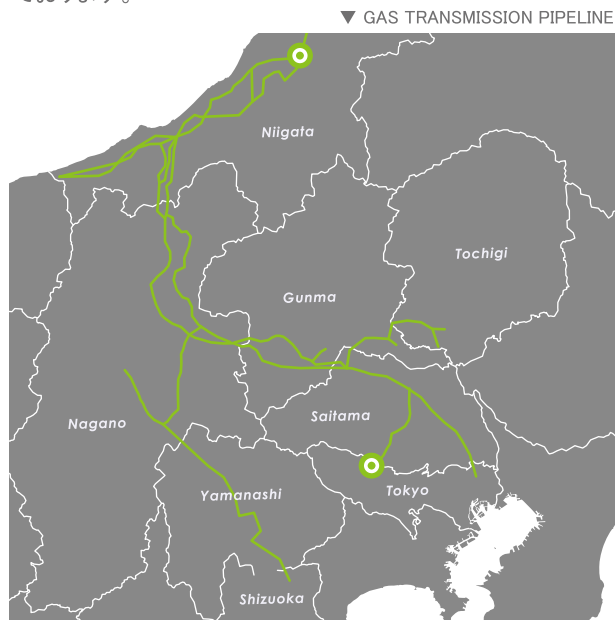


■ 環境負荷の低減

1. 環境にやさしい天然ガスの普及促進を図ります。

燃焼時に二酸化炭素(CO₂)の発生量が石油や石炭に比べ少なく、硫黄酸化物(SO_x)を含まない天然ガスの普及促進を図ることにより、地球環境保全に貢献しています。

また、弊社が供給している天然ガスは、新潟県長岡市からパイプラインで結ばれているため安定した供給が可能となっております。



2. 省エネルギー型ガス機器の普及推進に努めます。

自宅で発電し、その際に生じた熱を給湯や暖房に利用する家庭用ガスコージェネレーションシステム「エネファーム」の販売も行っています。さらに、エネファームやエコジョーズ(高効率給湯機器)と太陽光発電システムを組み合わせでご提案することで更なる快適エコ生活をご支援して参ります。ひとつのエネルギーに依存せず、いろいろなエネルギーの特性を活かして効率的に利用するエネルギーベストミックスで暮らしとエネルギーのより良い関係をご提供いたします。

3. 省資源、省エネ活動を展開し環境保全を推進します。

青梅ガスでは地域を電力不足から守るというミッションのもと、2012年に社屋に太陽光発電を設置。2014年にはさらに太陽光発電の増設を行い、社屋で使用している空調ガスヒートポンプ(GHP)も太陽光発電し、電力を使用できるように回線を変更しました。太陽光発電は社屋の総消費量の約9.8%をまかなっています。

4. 廃棄物の抑制及び再利用、再資源化に取り組めます。

2008年よりガス管の入れ替え作業で発生する産業廃棄物発生量の把握を開始しました。現在は、現状調査の段階ですが、今後、このデータを元に発生量の削減に取り組むと考えています。

5. 社内全体での二酸化炭素排出量削減に取り組めます。

社内業務活動において、廃棄物分別推進による排出量低減・水道やガス使用の抑制・非稼働時の照明の消灯・社用車のアイドリングストップ推進等によりCO₂の排出量を抑えるよう取り組んでいます。

■ エコ・ステーション

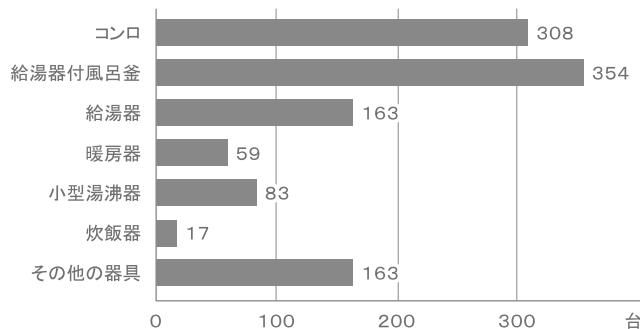
天然ガスは、自動車の燃料としても使われています。天然ガス自動車(NGV)は、ガソリン車と比較して約20~30%のCO₂排出量低減が可能とされております。そして、環境保全への取り組みに注力される多くの企業・団体様が業務・営業車両として導入をすすめ、その普及台数も年々増加しております。

青梅ガスは、天然ガス自動車(NGV)の燃料となる圧縮天然ガス(CNG)を充填する「天然ガス・エコステーション」を有し、都市ガスとして供給している天然ガスをコンプレッサーで圧縮しNGVに搭載された燃料タンクへわずか数分で充填しています。

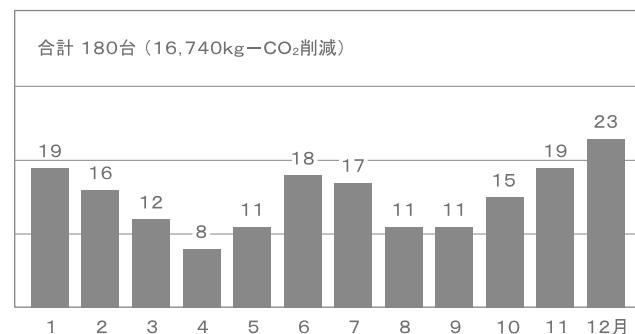
	契約台数	利用車両数	充填台数	充填量(m ³ N)
1月	292 (16)	121 (16)	999 (59)	22,333.6 (724.8)
2月	292 (16)	111 (16)	956 (55)	20,865.1 (714.3)
3月	292 (16)	120 (16)	1,025 (65)	22,550.5 (778.2)
4月	293 (16)	123 (16)	971 (72)	21,645.5 (742.5)
5月	294 (16)	118 (16)	947 (64)	20,349.3 (657.9)
6月	295 (16)	128 (16)	1,026 (83)	21,179.5 (814.3)
7月	296 (16)	129 (16)	1,110 (94)	24,291.5 (928.4)
8月	296 (16)	129 (16)	1,085 (83)	23,929.7 (814.3)
9月	296 (16)	129 (16)	1,041 (64)	22,973.4 (660.5)
10月	296 (16)	127 (16)	1,079 (68)	23,069.9 (677.6)
11月	297 (16)	125 (16)	938 (64)	20,302.7 (646.9)
12月	298 (15)	118 (15)	948 (63)	21,359.9 (639.2)

()内数値は自社車両分

■ 省エネ型ガス機器販売台数

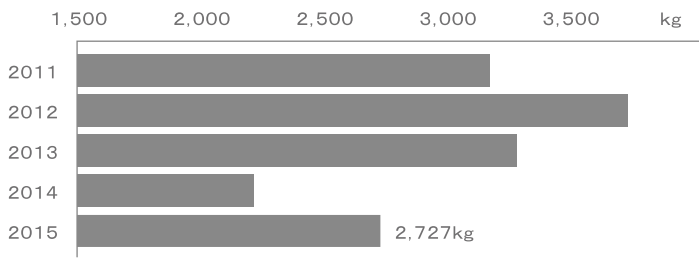


■ エコジョーズ販売台数



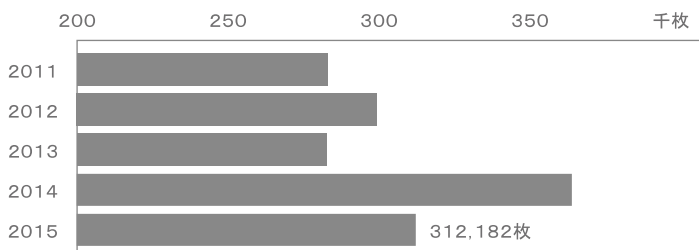
■ 廃棄物年間排出量の推移

本年は削減開始時の2004年に比べ、26.7%削減した結果となりました。今後も排出量の削減に努めます。



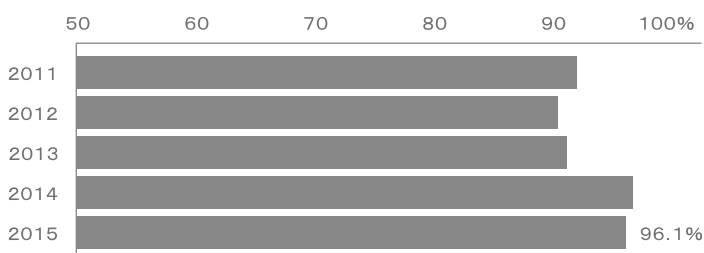
■ 紙の購入量の推移

本年は削減開始時の2004年度に比べ、12.6%削減した結果となりました。今後も引き続き書類のデータ化等を推進し削減に努めます。



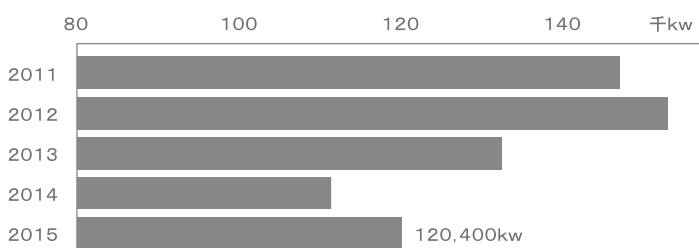
■ グリーン購入率の推移

購入時に対象商品の見直しを行い、グリーン購入率は96.1%となりました。今後も随時見直しを行い、グリーン購入推進に努めます。



■ 電気使用量の推移

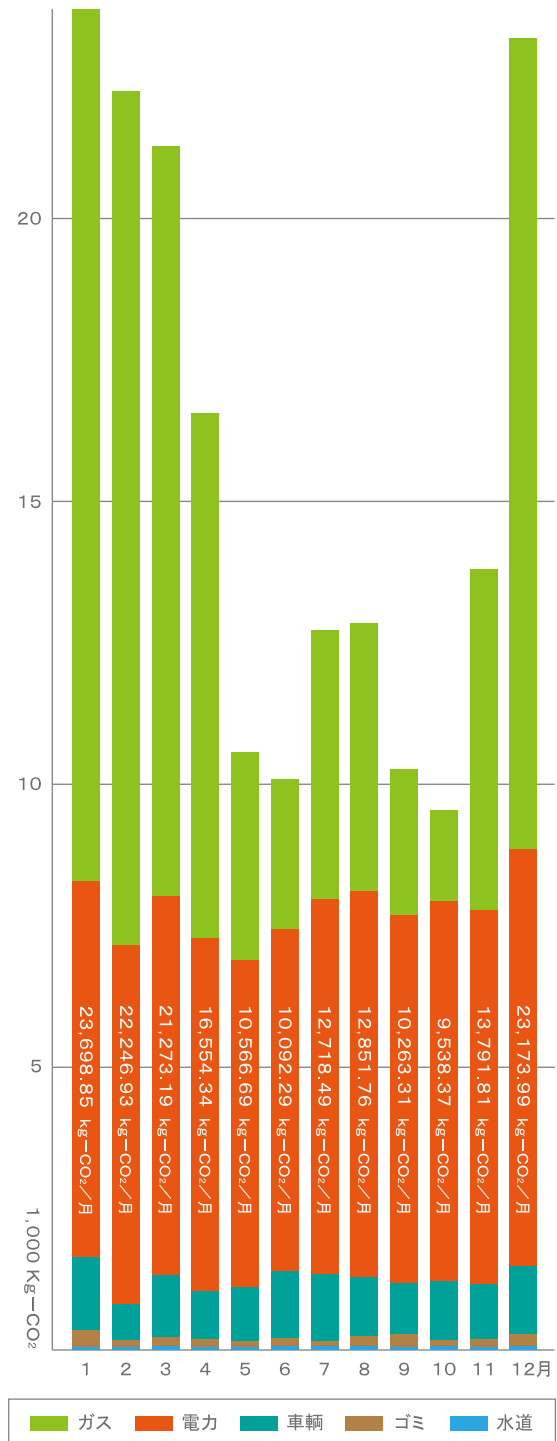
本年は、2004年比39.3%削減となりました。社屋に設置した太陽光発電システムにより、自然エネルギーを利用した削減効果が表れています。



■ 二酸化炭素排出量(項目別)

ガス	93,270.62 kg-CO ₂ /年
電力	78,399.36 kg-CO ₂ /年
車輦	12,377.20 kg-CO ₂ /年
ゴミ	1,923.60 kg-CO ₂ /年
水道	799.24 kg-CO ₂ /年

■ 二酸化炭素排出量(月別)



■ 東京都家庭の省エネアドバイザー事業

青梅ガスは、東京都から事業の統括団体としての認定をうけ、省エネ診断員15名、および、東京都認定節電アドバイザー34名の養成を行いお客様のお住いへ訪問し、家電製品別の節電方法や削減効果などを分かりやすいパンフレットを使ってアドバイスしています。



■ みどりのカーテンコンテスト

青梅市・JA西東京との共催で「みどりのカーテン」の育成内容を競うコンテストを毎年開催しています。また、青梅ガスの社屋においても、朝顔の「みどりのカーテン」を実施。「みどりのカーテン」は夏の日射しを遮り周辺気温を下げる効果があり、夏期の節電を地域一体となって推進していきたいと思っています。



■ 事業所近隣の清掃活動

毎月1回、本社および末広事業所近隣の路上清掃活動を実施しています。この活動を通じて各社員の環境に対する意識向上を図るとともに、この活動が将来的に近隣の皆様との環境コミュニティとして成長することを期待し活動しています。



■ ガス工事産業廃棄物発生量

	廃棄物発生量(m³)	新設管1m当り(m³)
アスファルト	709.83	0.15
コンクリート	186.43	0.04
残土	2,127.13	0.46



▼ 新設管		▼ 撤去管	
PE200A	516.0m	PE150A	0.2m
PE150A	942.3m	PE100A	1.5m
PE100A	795.8m	PE75A	2.2m
PE75A	768.5m	PE50A	2.8m
PE50A	405.7m	PE30A	17.7m
PE30A	648.8m	PE25A	4.3m
PE25A	1.2m	KPW300A	24.0m
KPW300A	26.0m	KPW150A	0.6m
KPW200A	6.0m	VP75A	505.7m
KPW100A	244.5m	VP50A	638.1m
PLP50A	5.0m	TM100A	4.8m
		KFW150A	215.2m
		KPN80A	46.8m
		KPM50A	13.0m
		PLS50A	1.1m
		PLS40A	1.7m
		PLS25A	108.4m
		PLP80A	5.2m
		PLP50A	0.8m
		PLP25A	34.0m
		KS25A	3.3m
合計 (A)	4,627.6m	合計	1,631.4m
発生量処分費		4,627,228円	
アスファルト処分費		507,150円	
発生材処分費		1,313,247円	
合計 (B)		6,447,625円	
処分費／本管敷設 (A)／(B)		1,393円／m	

■ 廃棄物のリサイクル

廃棄物	古紙類	▶	再生紙	■ RPF (RefusePaper&PlasticFuel) : 再生資源燃料 産業廃棄物として排出している可燃ごみは、処理を委託している中間処理業者によりRPF化し、化石燃料の代替固形燃料として再利用されています。RPFは、古紙とプラスチックを原料とした高カロリー固形燃料です。製造は、従来、焼却・埋め立て処理していた古紙やプラスチックを細かく粉碎し圧縮・成型し商品化されます。石炭やコークスなど化石燃料の代替として、多くの産業で利用されています。エネルギー効率の向上と環境規制物質が少なく、CO₂削減など地球温暖化防止にも貢献しています。
	鉄くず類	▶	建材・鉄鋼品	
	ガラス類	▶	道路の反射材	
	可燃物	▶	RPF 再生資源燃料	
	廃プラ類	▶		
	飲料容器類／梱包材	▶		
			○ カン・ビン・ペットボトル → 飲料メーカーにてリサイクル ○ ガス機器梱包材・発砲スチロール → 機器メーカーが回収	

環境保全効果

環境保全効果項目			単位	2011年	2012年
自社業務	公害防止効果	本社・末広事業所 NOx排出原単位 (都市ガス販売時に排出するNOx量)	mg-NOx/m ³	0.34	0.14
	地球環境 保全効果	本社・末広事業所 CO ₂ 排出量 (電気・ガス・水道・車輛・廃棄物)	kg-CO ₂	194,018.05	251,234.00
		本社・末広事業所 CO ₂ 排出原単位 (都市ガス販売時に排出するCO ₂ 量)	g-CO ₂ /m ³	8.6	11.1
		業務活動における 車輛使用時のCO ₂ 排出量	kg-CO ₂	21,589.30	18,834.50
		業務活動における 車輛使用時のNOx排出量	kg-CO ₂	7.64	3.21
	資源循環効果	業務活動において排出される 可燃ゴミ排出量 ※RPFにより再利用されています。	kg	3,170	3,730
需要家先	需要家先での 環境保全効果	省エネ機器の拡販による CO ₂ 排出抑制量	kg-CO ₂	11,775	13,755
		他燃料からの転換による CO ₂ 排出抑制量 (一般家庭)	kg-CO ₂	17,026	10,950
		他燃料からの転換による CO ₂ 排出抑制量 (法人)	kg-CO ₂	—	—
		他燃料からの転換による CO ₂ 排出抑制量 (法人)	kg-CO ₂	35,472	81,386

環境保全効果項目			単位	2011年	2012年
自社業務	廃棄物削減による 経費削減額	廃棄物排出量抑制による 経費削減	円	¥253,600	¥298,400
	掘削発生土の 排出量削減による 経費削減額	浅層埋設 掘削幅縮小工法の実施 (1m当たりの掘削土処分費)	円 (円/m)	¥9,879,460 (¥2,766/m)	¥9,095,325 (¥2,167/m)

【環境保全効果の算定について】

- 一般家庭における効果算出は、4人家族で風呂に200L湯張り、シャワー、洗面、炊事にお湯を使用した場合を想定しています。
(株式会社ノーリツの給湯機器カタログにおける試算条件より)
- CO₂排出係数は、「地球温暖化対策の推進に関する法律施行令」による係数を使用しています。
- 機器の熱効率は、株式会社ノーリツのカタログに従います。灯油給湯器熱効率は、製造後10年の機器効率を使用しています。

2013年	2014年	2015年	環境保全効果
0.09	0.09	0.08	前年比 ▲0.01 mg-NOx/m ³
215,597.20	199,580.70	186,770.00	前年比 ▲12,810.7 kg-CO ₂
9.5	9.3	9.6	前年比 0.3 g-CO ₂ /m ³
16159.5	14839.2	12377.2	前年比 ▲2462.0 kg-CO ₂
2.17	2.02	1.73	前年比 ▲18.47 kg-CO ₂
3,280	2,210	2,727	前年比 517 kg
12,705	14,970	16,740	省エネ機器への取替推進によるCO ₂ 削減量
10,920	9,300	7,415	都市ガスへの転換によるCO ₂ 削減量
—	—	—	LPガスへの燃料転換によるCO ₂ 削減量 ※本年度は天然ガス普及に努めた結果、実績なし。
71,653	973,768	34,110	都市ガスへの燃料転換による効果

2013年	2014年	2015年	環境保全効果
¥262,400	¥176,800	¥206,200	前年比 29,400 円
¥8,871,292 (¥4,481/m)	¥10,592,095 (¥2,479/m)	¥6,447,625 (¥1,393/m)	前年比 ▲1,086 円/m

● 2015年のCO₂の排出削減量を杉の木の吸収量に換算すると！？

当社の主な事業活動において削減できたCO₂の量は[73,538kg-CO₂]となりました。
この削減効果は、杉の木[5,253本]に相当します。[73,538kg]÷[14kg/本]*≒[5,253本]
そして[5,253本]の杉林の面積を例えると、およそドーム球場[約1.3個分]に相当する広さです。

※ 参考資料:「地球温暖化防止のための緑の吸収源対策」



2015
Environmental Report

青梅ガス株式会社 環境報告書